

第 21 回日本在宅ホスピス協会  
全国大会 in 金沢  
あなたと生きた家でいきたい  
～大切なものを守るために～

やまと@ホームクリニック院長  
第 21 回 HHA 全国大会  
大会長 大和太郎



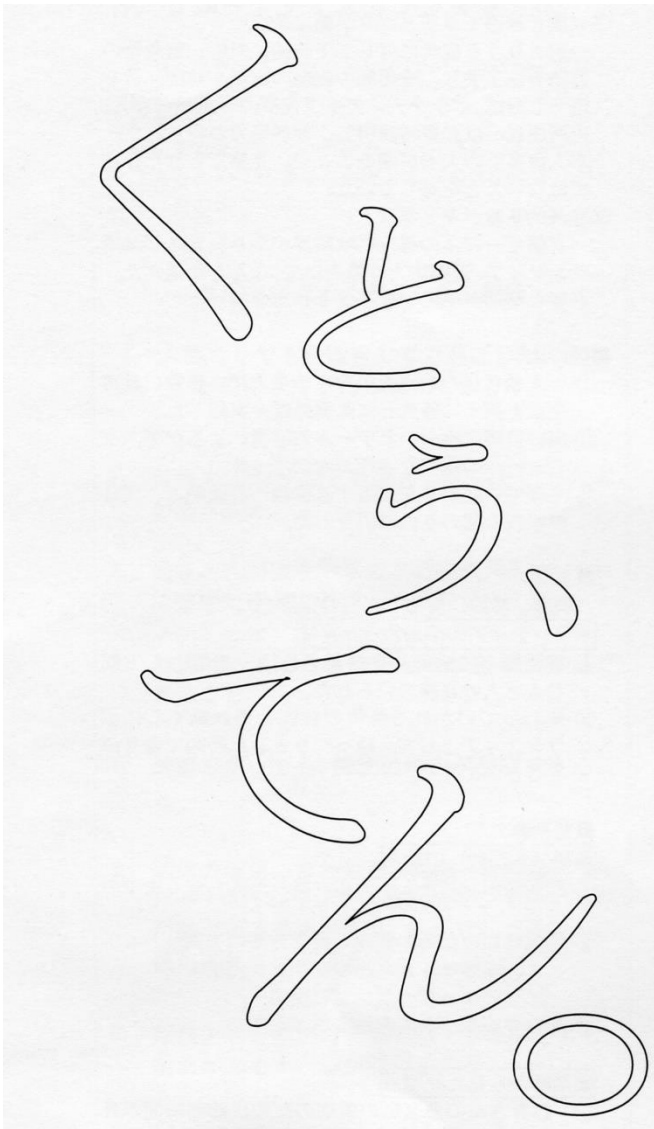
はじめに

日本在宅ホスピス協会の第 1 回全国大会が宮崎県で開催されてから、昨年度の東京都立川市の大会まで、20 回の全国大会が開催されています。その歴史ある協会の第 21 回目の大会長を務めることができましたのは、大変光栄なことと思っております。

遡ること 2 年前、小笠原協会長より「温泉に入りたい。だって癒しを提供するものは、癒しが必要だから！ やまと君、第 21 回の全国大会は金沢で開催して」 えっ！？そんな理由で大会長決めていいの？？と驚愕しましたが、「過去の大会を主催した皆さんが優しく教えてくれるから大丈夫！」のお言葉を信じ、お受けすることとしました。



早速、第 19 回宮城大会には、運営事務局長の寺田と、補佐の太田を派遣し、2 年後の金沢大会に向けた準備を始めたのでした。第 20 回の立川大会には運営委員 5 人で参加し、舞台裏まで勉強させていただきました。またそれ以前の大会長、実行委員の方々にメールやお電話にてご連絡させていただいた際も、皆様お忙しいなか快くお教えくださいました。この場を借りて御礼申し上げます。



日本在宅ホスピス協会会報 ●第 40 号●  
2019 年 新春号



新年おけまして  
おめでとうございます。  
本年もどうぞ宜しく  
お願い致します。



今回のくとう、てんは…  
昨年 11 月に開催いたしました  
全国大会の報告をいただきます。  
実行委員の皆様、ありがとうございました。  
大変、盛況な大会になりました事  
心よりお礼申し上げます。

さて大会のテーマは『あなたと生きた家でいきたい～大切なものを守るために～』としました。

ケアを必要としている“あなた”や、あるいは支えるパートナーでもある“あなた”が、こころ穏やかに過ごすことができる“家”でどのように過ごすのか。

“いきたい”には、生活をしたい、穏やかに旅立ちたい、旅立ったあとも生き続けたいという意味を込めました。

ただ私も運営委員も、大会が迫るにつれて心穏やかではなくなり、生きた心地が全くしませんでした。打ち合わせをすればするほど、不安要素が噴出。このまま旅立ってしまいたい思いに駆られました。



### 【大会前夜】平成30年11月2日(金)

ウェルカムパーティーは約40人の皆様に参加いただき、金沢犀川温泉、川端の湯宿「滝亭」で行なわれました。「普段、癒しを提供している協会長はじめ参加された皆様に癒す」という大きな使命が課せられていたので、ある意味最も緊張しました。かなり飲まされていましたが全く酔えなかったことを憶えています。皆様が楽しんでいただいている様子を見て安心し、二次会を私の部屋に移した頃ようやく酔いがまわってきたのでした。



### 【大会初日】11月3日(祝)

大会は、金沢駅東口前の石川県立音楽堂で開催されました。メインホールのシンボルであるパイプオルガンの荘厳な音色が響きわたるなか、実行委員長である金沢市医師会会長 羽柴 厚先生の開会宣言から大会スタート。700名を超える方で埋まる市民公開講座では、まず協会長の小笠原文雄先生に「なんとめでたいご臨終～ホスピスケアの贈り物～」として、在宅で穏やかに過ごされる方、旅立たれる方のお話をいただきました。小笠原先生に聴衆の皆さんの心を鷲掴みにしていただき、会場が十分温まった後に私が登場するというラッキーも手伝って、私の拙いお話「あなたと生きた家でいきたい～大切なものを守るために～」にも真剣に耳を傾けていただいたように思います。



引き続き音楽堂内の別会場でランチョンセミナーが行なわれました。

#### ランチョンセミナー1

##### 「排便マネジメントの達人になる」

座長：本間恵子先生（金沢医科大学病院）

講師：余宮きのみ先生

（埼玉県立がんセンター緩和ケア科部長）

#### ランチョンセミナー2

##### 「ヒドロモルフォン3製剤をどう使いこなす

～オピオイドの投与経路を考える～

座長：石井要先生（公立松任石川中央病院）

講師：小杉寿文先生

（佐賀県医療センター好生館緩和ケア科）

いずれも診療に役立つ実践的なお話しで、立ち見が出るほどの賑わいでした。

午後からはシンポジウム、口演発表、ポスター発表、ワークショップ、VR体験を企画しました。

#### シンポジウム①

##### 「地域でつなぐ

～最後まであなたらしく暮らせるまちづくり～

座長：龍澤泰彦先生（済生会金沢病院）

シンポジスト：武田俊彦先生

（前・厚生労働省医政局長）

下河原忠道先生

（株式会社シルバーウッド）

中村悦子先生

（みんなの健康サロン 海風）

ひとりひとりの生活を地域で支えるために何がなされており、これから何をすべきかをそれぞれの立場から発言いただきました。

#### シンポジウム②

##### 「家でつなぐ～大切なものがたりの紡ぎ方～

座長：黒瀬亮太先生

（金沢ホームケアクリニック）

シンポジスト：佐藤伸彦先生

（ものがたり診療所）

天野良平先生

（金沢大学名誉教授/聞き書き学校講師）

神野俊介先生

（なないろ訪問看護ステーション）

馬渡徳子先生

（患者家族/金沢市地域包括センターかみあらや）

シンポジストの皆さんが経験されたものがたりをお聞きすることができ、心に響いた時間でした。

#### シンポジウム③

##### 「大切なものをつなぐ～ACP のススメ～

座長：江戸稚香子先生（金沢医療センター）

人見由希子先生（石川県立中央病院）

シンポジスト：紅谷浩之先生

（オレンジホームケアクリニック）

笠谷美保先生（千葉ろうさい病院）

宇野達也先生

（ヤナセ薬局 在宅医療部）

谷口紀子先生（ご遺族）

話題のACPについて、フロアからも活発な意見をいただきました。

#### シンポジウム④

##### 「生きた証をつなぐ

～亡くなってもあなたと生きたい～

座長：川浦幸光先生（小池病院）

北野真実先生（小松市民病院）

シンポジスト：秋山正子先生

（認定NPO マギーズ東京）

谷山洋三先生

（東北大学大学院文学研究科）

西村詠子先生

（NPO 法人 がんとうきあひ会）

ニューヨーク訪問看護サービススピリチュアルケア主任カウンセラー（チャプレン）の岡田圭先生に特別発言をいただき、さらに理解を深められました。

公募いただいた優秀演題の演者の方8名には、口演発表をお願いしました。

#### 口演発表①

座長：長尾 信先生（医療法人社団 長尾医院）

1-1

「思いを叶え隊！～多職種での遠隔交流で育まれた夢を叶えるプロジェクトの輪～

吉田香織先生

（医療法人 心の郷 穂波の郷クリニック）

1-2

「薬局と在宅診療所が定期ミーティングを行う地域緩和ケアの取り組みについて」

三宅 績先生（アイン薬局 古川店）

1-3

「奄美大島における医師会を中心とした連携強化型 在宅療養支援診療所・病院による在宅ホスピスケアの発展」

徳田英弘先生（ファミリークリニックネリヤ）

1-4

「終末期事例に悩む新人介護支援専門員が考えてみたアセスメントツール」

田中敦朗先生（なないろケアサポート）

## 口演発表②

座長：加藤洋平先生（メディカルらいふクリニック）

### 2-1

「多職種連携で自分らしい最期の選択に寄り添う看護 ～咽頭癌の看取りを経験して～」

前田恵美先生（SOMPO ケア金沢笠舞 訪問看護）

### 2-2

「生きた証を残す

～そのヒトらしい生活の支援～」

水戸満美子先生

（訪問看護・リハビリステーション「リハス」）

### 2-3

「パーキンソン病の利用者とその家族への意志決定支援 ～変わりゆく思いを支える～」

大出寛子先生（訪問看護ステーション芍薬）

### 2-4

『「みがわりかんのんさま」-東日本大震災被災地・釜石市鶴住居地区における被災文化財保護と、「あなたと生きた家でいきたかった」地域の住民への心の支援の活動』

武田夏実先生（虹友会書道教室復光写経会）

## ポスター発表

ポスター発表では5名の座長のもと、公募された30演題の発表と活発な質疑応答が行われました。

セッション①「地域における連携」

座長：石黒 要先生（公立能登総合病院）

セッション②「非がんの緩和ケア」他

座長：加藤あゆみ先生

（医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院）

セッション③「看取り」

座長：平元まどか先生

（済生会金沢訪問看護ステーション）

セッション④「症状コントロール」他

座長：小林星太先生（とくひさ中央薬局）

セッション⑤「意思決定支援」

座長：斎藤優生先生

（石川県済生会金沢病院）

## ワークショップ 「最後まで口から食べる」

最期に口から食べられなくなるのは自然なこと。最期まで口から食べたいと願うのは当然のこと。その人らしい最期だったと思えるような終わり方のためにできることは何か？ 金沢在宅NST 経口摂取相談会のメンバーにより、人生の最終段階における食評価について症例を提示していただきました。

## VR 体験

「高齢者への救急処置は最善の選択なのか」必要な医療のみを選択し、医療依存度を高め過ぎず、「老いて死にゆく」というプロセスを人間の自然経過として受け止め、最期まで寄り添う。良質な看取りの場を疑似体験することができる企画を下河原忠道先生（株式会社シルバーウッド）に用意していただきました。

## 大会懇親会

その夜、ホテル金沢で大会懇親会が開かれました。メディカルオーケストラ金沢によるグリーグのホルベルク組曲1楽章でオープニングが飾られました。実行委員長の羽柴先生、金沢市長代理の西川様、協会長の小笠原先生のご挨拶に続いて、石川県医師会理事の橋本先生に乾杯のご発声をいただき、歓談スタート。金沢大会のために書き下ろした新曲「Yeahっといえ一家」を披露してくれたシンガーソングライター Nonchamp（ノンシャン）のステージ、またシンポジウムでは座長も勤めていただいた龍澤先生率いるタツザイルによるアカペラで、宴は最高潮に。司会を勤めた今大会運営委員のジャイ子を、ジャイアン（前大会実行委員長）がサポートして下さり、これもまた大いに盛り上がりました。大会長がセレクトした美味しい地酒コーナーも盛況でした。次期全国大会メンバーの山梨大会のアピールに続いて、懇親会参加者全員で記念撮影し、惜しまれつつお開きとなったのでした。



## 【大会最終日】11月4日（日）

### 県民公開講座

「あなたと生きた家でいきたい

～もしもの時の道しるべ～

座長：山田圭輔先生（金沢大学附属病院）

榊原千秋先生（ややのいえ）

#### 講話 1

「ACP とフレイル ～本人らしく生きて生き終わることをサポートするために～」

会田薫子先生（東京大学大学院人文社会系研究科死生学・応用倫理センター上廣講座特任教授）

#### 講話 2

「在宅ひとり死はできる！

～あなたがそう望むなら～」

上野千鶴子先生（社会学者/認定 NPO 法人ウィメンズアクションネットワーク（WAN）理事長）

#### 講話 3

「自宅での最期ってありですね

～死別の受容、再生する豊かさ～」

多田文夫先生（ご遺族）



続いて大会長の和による皆様へのお礼のご挨拶に続いて、第 22 回大会長の小俣二也先生による山梨大会のアピールをいただきました。小笠原協会長の「家で過ごしたいか～」の掛け声で、「イエ～」と会場全体がひとつになったところで全日程を終了、無事閉会となったのでした。



### 終わりに

ホスピスケアの根幹たるものは、“大切なものを守る” 気持ちだと考えています。ケアを必要としている人が大切にしているものを、支える人たちが常に意識し守っていく。入院が必要になったとしても、大切なものを家から病院へ、また家に戻るときには病院から家へとつないでいく。

大切なものを支える人も、いずれは支えられる立場となります。全てのひとが穏やかに生き、逝ける地域を目指すには何が必要なのかを、大会に参加していただいた皆様と対話し、一緒に考えることができる良い機会となりました。

大会期間中は至らない点があり皆様にご心配とご迷惑をおかけしましたこと、大会長としてこの場をお借りしてお詫び申し上げます。その一方で本大会が盛会のうちに終えることができましたのも、皆様のお力添えの賜物です。ご協賛、ご寄付いただいた皆様、展示ブースを設置していただいた企業の皆様にも多大なるご支援をいただきました。第 21 回日本在宅ホスピス協会全国大会 in 金沢に参加していただいた皆



3名の講師のお話のあとは、Nonchamp に新曲を含む3曲を演奏していただきました。その心温まるステージに続いて、先ほどの3名の講師に、協会長の小笠原文雄先生も加わっていただいたの討論となりました。話題のACPの是非についても白熱した議論が交わされました。

様、関わっていただいた全ての皆様に改めて感謝致します。また頼りない大会長を影で支えてくれた運営スタッフの皆様にも感謝の意を表します。

平成10年の宮崎大会から始まった日本在宅ホスピス協会全国大会は、金沢が平成最後の大会となりました。新元号となる山梨大会で皆様と再会し、美味しいフルーツとワインを堪能できることを楽しみにしております。皆様ありがとうございました。

#### 追伸…小笠原より

全国大会終了後、Share 金沢とげんちゃんハウスに武田俊彦新顧問と奥様の武田夏実様、藤田敦子様と視察に行っていました。Share 金沢の天然温泉はとても気持ち良かったです。もちろん、ウェルカムパーティー会場の犀川温泉のお湯も格別でしたよ。心身ともに癒された全国大会をありがとうございました。



次回…

第22回 日本在宅ホスピス協会  
全国大会 in 甲府  
2019年9月27日(金)～29日(日)



日本在宅ホスピス協会

〒500-8455 岐阜市加納栄町通 5-12  
TEL058-273-5250 FAX058-273-6063  
E-mail n-hospice@n-hha.com  
<http://n-hha.com/>

## 「在宅ホスピスケアの基準」の改定、「地域緩和ケアの指針」の制定について

「在宅ホスピスケアの基準」が1998年に制定されてから20年が経ちました。時代の変化に伴い、3年間、基準の見直しを下記のメンバーで検討してまいり、この度、「在宅ホスピスケアの基準」が改訂されました。役員会において様々なご意見いただきましたが、今後は「在宅ホスピスケアの基準の解説」の作成を予定しております。

また合わせて、「在宅ホスピスケアの基準」とは別に、地域でホスピスケアを実践するための拠り所となる「地域緩和ケアの指針」を策定しました。こちらの指針については今後実践しながら、みなさんの意見も柔軟に取り込んで、発展させてまいります。

まずは新しい「在宅ホスピスケアの基準」と「地域緩和ケアの指針」を別途送付させていただきますので、ご一読のほどよろしく申し上げます。

#### 基準見直し検討委員会

会長 小笠原文雄

委員長 二ノ坂保喜

委員 野村良彦、蘆野吉和、徳田英弘、小野宏志、西村京子、渡辺邦彦、  
田實武弥、三浦正悦、安部能成、藤田敦子、正野逸子、大石春美、  
宇野さつき、木村久美子、片見明美、

事務局 岩佐充矩、巖后顯範